

AHRESTY REPORT 2021

For the year ended March 31, 2021



Ahresty

RESEARCH SERVICE TECHNOLOGY

それぞれの追求と統合を進め、豊かな社会の実現を目指します。

私たちの社名は、ResearchのR、ServiceのS、TechnologyのTを続けて読んだものです。
Researchとは絶えることのない新技術・新市場・新しい販売方法の開発・研究調査、
Serviceとは人と人とのふれあいのなかでの本当に行き届いた温かいサービス、
Technologyとは世の中に役立つ真によいものをハードもソフトも含め作ってゆく技術を意味します。

このResearch、Service、Technologyは、それぞれが独立して考えられるのではなく、
開発・研究調査のResearchにもそのための技術(Technology)があり、サービス精神(Service)が必要です。
いかえれば、このRとSとTは、お互いに深く支えあい結びつきあいながら、
互いをよりすばらしいものへと磨きあってゆくという有機的な関係にあります。

私たちは、このような考えのもとにResearch、Service、Technologyを統合した思想を
社の企業理念として「アーレスティ」と呼ぶことにし、社名としております。

私たちは、この社名に込められた企業理念を大切に生かし、
様々な製品を通して、広く社会のお役に立ちたいと願っています。



視線はまっすぐ未来へ

タグライン「Casting Our Eyes on the Future」は、その社名に込められた企業理念を実現すべく、アーレスティで働く者すべての視線が、常にお客様、地球環境、そしてアーレスティ自身の未来へ向けられ、Research(研究・開発)、Service(サービス)、Technology(技術)において常に主導的リーダーに立ち前進しようという企業姿勢を具現化したものです。
なお、「Casting」は、「投げかける」という意味の他に、当社の主要事業である「Die Casting」の意味も込めています。

常に生きいきと活動し
理論と実験と
創意と工夫を尊重して
品質のすぐれた製品と
行き届いたサービスを提供しよう

RST Way-5つの行動基準-

アーレスティの経営基本方針を社員一人ひとりが実現するための考え方や行動の基本となるものが、RST Wayの5つの行動基準「誠実」「率先」「スピード」「成長」「挑戦」です。

誠実	お客様及びすべての関係する皆様のために、真面目にひたむきに努力します。多様な意見・考え・価値観を素直に聴いて理解に努めます。
率先	自ら考え、成功に向けて積極的に行動します。一人ひとりが率先して行動し、大きな改善につなげます。
スピード	社会のニーズやグローバル市場の変化をとらえ、迅速に行動します。常に仕事のやり方や技術の改善・改革に努めます。
成長	目標に向けて常に進化します。探究心をもって自分を磨き、期待に応えます。
挑戦	高い目標の達成に向けて果敢に取り組みます。失敗を恐れず理論と実験、創意と工夫を尊重して挑戦を続けます。

CONTENTS

2 企業理念	20 連結財務ハイライト
4 トップメッセージ	21 持続的な成長のために
6 アーレスティの価値創造	30 企業情報
12 1921中期経営計画進捗	31 数字で見るアーレスティ
16 各事業の取り組み	

ビジネス領域拡大に向けて積極的に電動化戦略を推進

20年度の振り返りと

1921中期経営計画の取り組み

はじめに、新型コロナウイルス感染症に罹患された皆様の一日も早い快癒を願い、お見舞い申し上げるとともに、亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表します。そして最前線で感染拡大防止に尽力されている関係者の方々に深く感謝申し上げます。

20年度、新型コロナウイルス感染症による国内外のお客様の生産休止やロックダウン等、当社事業への影響は大きく、第1四半期の出荷量は19年度比5割以上減少しました。第2四半期以降は回復基調にあり、第3四半期の出荷量はほぼ前年並みとなりましたが、第4四半期は半導体不足などによる自動車の減産や急激なアルミ相場の高騰が当社業績に影響しました。グループ全体での経費・投資の削減と出荷量の回復で、下期の営業利益は黒字化しましたが、上期の大幅な減収の影響を払しょくするには至らず、通期営業損失を余儀なくされました。19年度に引き続き大変不本意な結果となり、株主の皆様はじめステークホルダーの方々にはご迷惑、ご心配をおかけし申し訳ございません。この厳しい経営環境克服のため、1921中期経営計画に基づき、収益体質の改善・競争力強化を鋭意推進しております。生産現場や間接部門の省人化、設備投資の圧縮、生産性改善に

より、固定費・変動費を削減し損益分岐点の低減を積極的に進めました。また、品質向上の取り組みにおいては、国内外の主要なお客様より品質賞を受賞しました。今後も常に安定した品質の製品を提供することで、お客様からの高い評価につなげてまいります。

自動車電動化とその対応

「2050年までにカーボンニュートラルに挑戦」とした我が国の宣言と同様、各国での環境対策も進み、自動車メーカー各社も電動車(EV・HEV・PHEV・FCV)への転換を加速しています。内燃機関と電動機の2つの動力源を持つHEVやPHEVは、当社の主力とするエンジンやトランスミッションに加え、インバーターやコンバーターなど電気制御関連部品等が追加されるため、ダイカスト需要は拡大します。EVやFCVにおいては内燃機関がなくなる一方で、電動化に伴い電気制御関連部品、モーターハウジングや減速機、バッテリーケース等、新たな需要が発生します。現状の新規受注製品や量産化する製品の多くが電動車搭載部品であり、2025年には売上げの約3割を占める見込みです。今後も各国の状況変化を捉えながらビジネス領域拡大に向けて営業活動を強化し、積極的に電動化戦略の推進に努めてまいります。

持続的成長のために

持続的成長のために、当社グループは「アルミダイカスト製品供給によるクルマのエネルギー消費効率向上」、「エネルギー効率の改善等による使用化石燃料資源の低減」に取り組んでいきます。私たちが生産に用いるアルミは、ほとんどがリサイクル材です。リサイクルアルミ生産で生じるCO₂は鉄のおよそ7分の1、さらに比重は鉄の約3分の1です。この優れた環境性能を活かし、技術を進化させてさらに車を軽くすることで気候変動への対策に貢献できると考えております。また、生産工程におけるCO₂削減にも積極的に取り組んでまいります。経済回復にはまだまだ不透明感があり、事業環境も大きな変化が予想されますが、グループ一丸となって企業価値の向上に努めてまいりますので一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長
最高執行責任者

高橋 新
Arata Takahashi




取締役 執行役員

代表取締役
専務執行役員
製造本部長

伊藤 純二
Junji Ito



代表取締役
専務執行役員
管理本部長

高橋 新一
Shinichi Takahashi



取締役
専務執行役員
営業本部長

金田 尚之
Naoyuki Kaneta



取締役
常務執行役員
東海工場長
(株)アールスティブリテック
代表取締役社長

蒲生 新市
Shinichi Gamou



「良いものをつくる」 一貫通貫の生産体制とアーレスティの強み

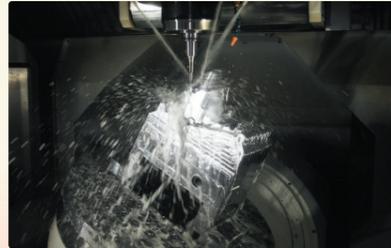
創業以来、アーレスティは自動車向けアルミダイカスト製品の製造を主力事業としています。アルミニウム合金地金生産、設計、金型製作、鋳造、機械加工からダイカスト生産用周辺機器の製造・販売まで一貫通貫の生産体制を整備。また、自社開発製品モバフロアの製造・販売も手掛けています。「良いものをつくる」ために、品質・生産性・保全のしくみを全拠点で統一し、グローバルでの同一品質生産を実現しています。

【アーレスティの生産体制】

Manufacturing Process



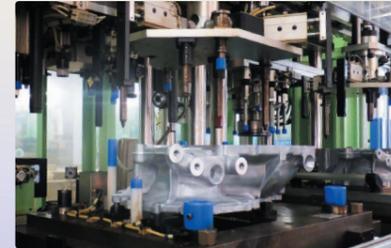
【設計】



【金型製作】



【鋳造】



【機械加工】



【出荷・納品】

アルミニウム合金
地金生産



ダイカスト生産用周辺機器
製造・販売



センシング技術を活用しデータの
収集・分析・見える化

各工程の稼働状況や
設備の監視による
品質改善・予防保全

クリーンルーム向け
国内シェア
No.1!

自社開発製品モバフロア
(フリーアクセスフロア)

自動車部品

【新型コロナウイルス感染症拡大への対応策】

全社感染予防・
感染拡大防止体制の強化

- 新型コロナタスクフォース設置
- 各拠点コロナ対策班の設置
(各国政府、自治体の指示・対応方針
にもとづき、感染防止策を徹底 他)

全社対応指針および
各拠点ガイドラインの制定・運用

- 全社指針・各拠点ガイドラインの制定
- マニュアルの明確化
(出社時の検温、マスク・フェイス
ガード等の着用・定期的な消毒作業 他)



工場(海外)出社時の検温

【統計的品質管理を活用した最適製造条件の追究】

【要因】

材料
設備 (鋳造機・ユーティリティ)
鋳造条件
金型

【2Dコード】



製造パラメータ計測値と
品質の紐付け

【データの蓄積・解析】



・実験計画法
・統計的手法

生産性
品質改善

自動車の軽量化・電動化への対応

アーレスティは国内外に鋳造機を200台以上保有。難易度の高い製品の生産は開発段階からお客様と連携し自動車の軽量化に貢献しています。また、環境問題に対する各国の燃費規制強化・自動車の電動化に向けて、電動車(EV・HEV・PHEV・FCV)向け部品・電動化部品の技術開発提案を積極的に行っています。電動車搭載部品の売上シェア：20年度 11% ⇒ 25年度 約30%を目指します。

グローバル展開

アーレスティは、国内14拠点に加え、米国、メキシコ、中国、インド、タイの5カ国8拠点に海外展開しています。部品の共通化と生産拠点のグローバル化が進む自動車業界に対して、各ダイカスト工場は図面1つで同一品質の製品の供給が可能です。日本を含めた各国工場間で相互補完体制を整えており、販売台数の増減による生産変動にもフレキシブルに対応しています。

OPCC※による生産性向上

良品を作り続ける条件を明確にし、維持管理することで生産性向上・品質改善を行うOPCC活動を全拠点で行っています。センシング技術を活用して各種データを計測・収集し、分析。最適製造条件の追究を行っています。重点製品においては鋳造工程で2Dコードを付与し、各種製造パラメータ計測値と製品の品質を紐付け、統計的手法による品質管理を行っています。

※Optimal Process Condition Control

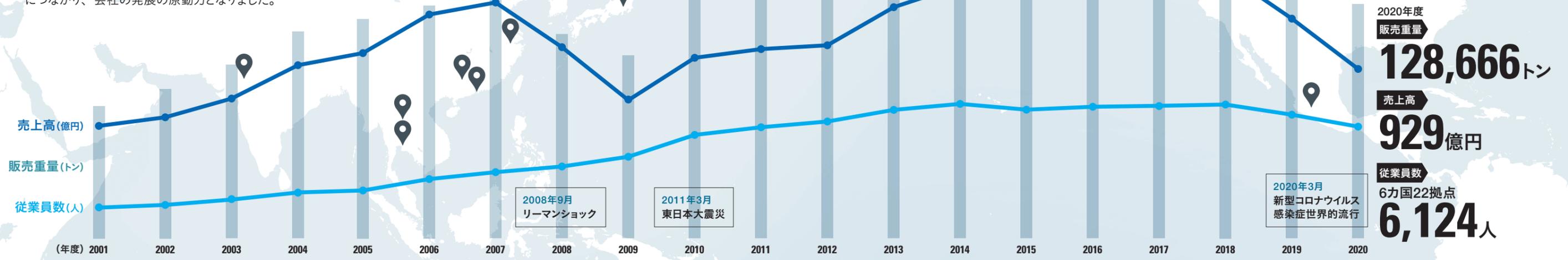
ものづくりを支えるひとづくり

グローバルで技術と品質を求めていくための基盤となるのはグループ全体での人材育成です。アーレスティでは全拠点同一水準の教育を体系的に受けられる体制を整えています。百年に一度の大変革期を迎えている自動車業界、加速する電動化に対応するために電動化に特化した各講座も開講しており、この講座には20年度は国内外で258名(国内：129名、海外：129名)が受講しました。

最も信頼されるサプライヤーを目指して —受け継がれていくDNA“誠実”—

アーレスティの前身である志村アルミニウム株式会社は、資本金40万円で設立され、東京板橋の町工場で従業員3名から出発しました。

「商売上の便宜のためにうそを言うてはならない」「お客様の利益のために最良なことを提案する」創業者 高橋愛次の言葉です。その誠実な姿勢が世間からの信用を得ることにつながり、会社の発展の原動力となりました。



1938- 創業

1938
アーレスティの前身志村アルミニウム株式会社を東京都板橋区に創立
アルミニウム合金地金、ダイカスト製品、アルミニウム砂型鑄物の製造を開始

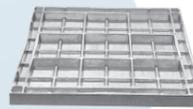


創業者：高橋 愛次 (1897-1976)

1943
扶桑軽合金株式会社(現：株式会社アーレスティ)を設立

1961
株式を東京証券取引所市場第二部に上場

1962
日本初のフリーアクセスフロア「モバフロア」発売



1964
国際ホームショーで開発製品「アイスベツト」が『出品チャンピオン賞』受賞

1983
「経営基本方針」成文化

[事業拡大とグローバル展開]

- 浜松工場 操業開始
- 株式会社日本精密金型製作所(現：株式会社アーレスティダイモールド浜松)〈金型製作〉設立
- 東海精工株式会社(現：株式会社アーレスティブリテック)〈加工〉設立
- 京都ダイカスト工業株式会社 豊橋工場(現：東海工場) 操業開始
- 栃木フソー株式会社(現：株式会社アーレスティ栃木)を設立
- 株式会社ダイテック(現：株式会社アーレスティダイモールド栃木)〈金型製作〉設立
- 熊本フソー株式会社(現：株式会社アーレスティ熊本)を設立
- 株式会社ダイテック熊本工場(現：株式会社アーレスティダイモールド熊本) 操業開始
- 熊谷工場(アルミニウム合金地金生産) 操業開始
- 東松山工場 操業開始
- バスカル販売株式会社(現：株式会社アーレスティテクノサービス)〈ダイカスト周辺機器製造・販売〉設立



1988- 株式会社アーレスティに 社名変更

1988
社名を扶桑軽合金株式会社より株式会社アーレスティに変更

1989
株式会社アーレスティ '89年度デミング賞 実施賞(中小企業賞) 受賞

1996
アーレスティ独自の鑄造法「NI(New Injection)法」で自動車用オルタネータブラケット量産開始

1997
スクーター用アルミダイカスト製一体モノコックフレームを世界で初めて量産化



1999
NADCA国際ダイカスト表彰

● Ahresty Wilmington Corporation(米国)を設立



● タイに金型製作を行う関連会社Thai Ahresty Die Co., Ltd. を設立

2000- 「自動車の軽量化に貢献するアーレスティ」を目指して

2003
第20回素材産業技術表彰にて「経済産業大臣賞」受賞

2004
技術者の早期育成を目的としたRST学園スタート

2006
テクニカルセンターを愛知県豊橋市に開設



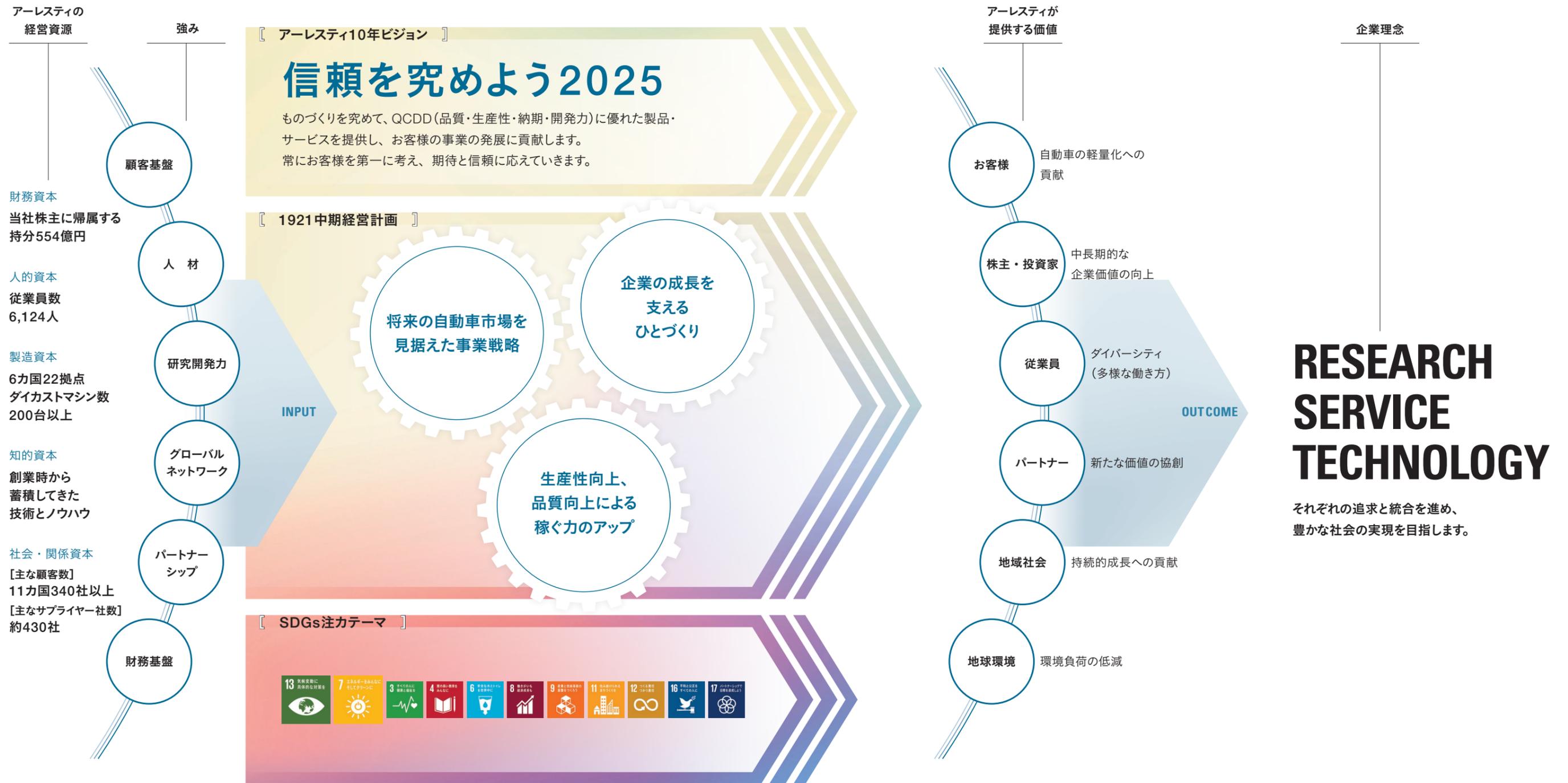
2014
東京証券取引所市場第二部から同市場第一部銘柄に指定

2018
創業80周年を迎える



- Thai Ahresty Engineering Co., Ltd.〈設計/タイ〉を設立
- 広州阿雷斯提汽车配件有限公司(中国)を設立
- 株式会社アーレスティと京都ダイカスト工業株式会社が合併
- 阿雷斯提精密模具(広州)有限公司〈金型/中国〉を設立
- バスカル工業株式会社と菅原精密工業株式会社が合併し、社名を株式会社アーレスティ山形に変更
- Ahresty Mexicana, S.A. de C.V.〈メキシコ〉を設立
- Ahresty India Private Limited〈インド〉を設立
- 合肥阿雷斯提汽车配件有限公司(中国)を設立
- 浜松工場と豊橋工場を統合し、東海工場として再編
- 株式会社アーレスティインクルーシブサービスを設立





需要回復の中で電動化が加速する自動車業界への対応

RISK

2020年度上期に大きく減少した自動車生産も下期にかけて回復しましたが、引き続き、半導体不足や新型コロナウイルス感染症による各国経済への影響など、短期的な自動車需要の変動要因に対して柔軟な適応力・対応力が必要です。また各国の気候変動政策や燃費規制強化を受けて、自動車の電動化が加速しています。こうした短期・中長期の事業環境の変化に備えて、まずは経営体質をより強化し適応力を高めるとともに、電動車市場で成長するための事業戦略を推進していきます。

電動化によって生まれる新たな事業領域への挑戦

CHANCE

今後の電動化の進展において、当面の主力となるHEV、PHEVは内燃機関と電動系部品の両方を併せ持つため、アルミダイカスト需要は従来型のガソリン車に比べ約2割増加するとみています(P.12参照)。そのため、当社の既存の事業領域に加えて、電気自動車新たな事業領域として増加するものと考えています。各国の電動化へのシフトに対し、これまでの量産実績、グローバル生産拠点の強みを活かしながら戦略的に受注活動を行い、電動車市場での成長を目指します。

将来の自動車市場を見据えた事業戦略

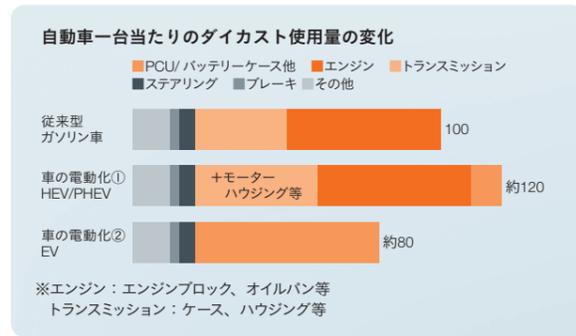
従来の部品群に加え、加速する自動車の電動化や燃費規制強化に対し、顧客ニーズに沿った電動化部品、構造部品の開発・受注活動に注力していきます。また、各工程の技術力を強化することで高いレベルの品質・生産性を実現し、お客様からの信頼向上を目指します。



⇒P16-17.「自動車の軽量化に貢献するアーレスティ」を目指す

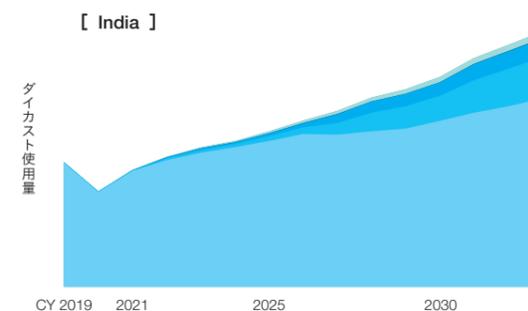
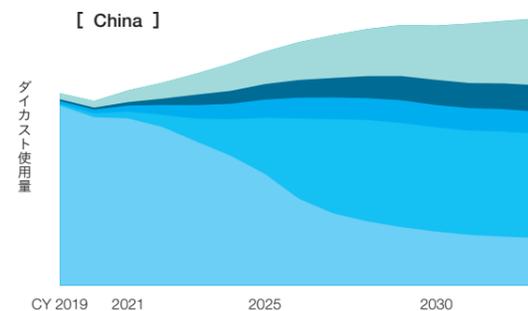
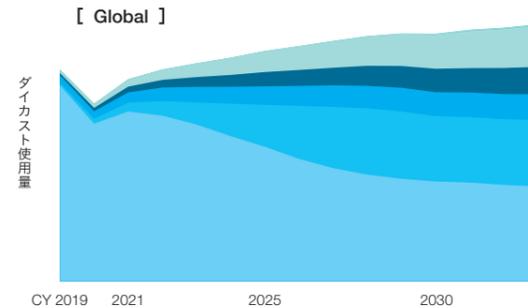
ダイカスト需要の変化と電動化戦略

今後の自動車の電動化において一台当たりのダイカスト使用量を見ると、HEV・PHEVはパワーコントロールユニット(以下、PCU)部品、バッテリーケース、モーターハウジング機能等が追加され、ガソリン車に比べて約2割増加します。一方、EVはEV専用部品の追加はあるものの、エンジン、トランスミッション部品がなくなり、約2割減少すると予測しています。グローバル自動車販売台数は今後も増加傾向にあり、グローバルでのダイカスト需要は、HEV・PHEVの台数増加に伴い当面の間、内燃機関を持つ自動車(ガソリン車、HEV、PHEV)向けの需要は緩やかに増加するものと考えられます。加えて、EVが新たなビジネス領域として拡大することにより需要が増加、今後も市場の成長が期待されます。地域的には、世界最大の自動車市場である中国は政策によりEV化が促進され、また、中国に並ぶ成長市場であるインドは、内燃機関を持つ自動車の需要が今後も増加していくと予測しています。



ダイカスト需要の変化

ICE (12VマイルドHEV含む) 48VマイルドHEV フルHEV
PHEV (ePower含む) EV FCV



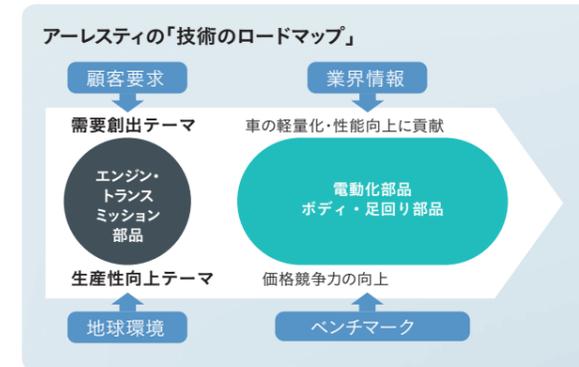
©2021 IHS Markit Inc. All rights reserved
(IHS2021年2月時点のデータを基に当社で予測作成)

【 電動化における事業戦略 】

自動車電動化のコア技術(PCU・モーター・バッテリー)関連部品を中心に、既存の顧客基盤・量産実績を活かし営業活動を強化していきます。EVに搭載されるモーター・インバーター・減速機を一体化した電動駆動ユニットeAxle(イーアクスル)部品、およびバッテリー部品を新規領域として捉え、ビジネスを拡大していきます。また、成長市場である中国・インドにおいては、それぞれの生産拠点を持つ当社の強みを発揮し、市場の拡大および電動化のスピードに応じた製品、技術戦略でより一層の成長を目指します。

顧客ニーズに沿った技術力強化

アーレスティのものづくりをレベルアップするために、市場・外部環境調査、顧客へのヒアリング等を基に技術戦略を策定し、技術ロードマップに沿った研究開発を行っています。「需要創出」、「生産性向上」をテーマに自動車の軽量化、性能向上、原価低減、エネルギー削減等に貢献する技術開発を行い、各工程のレベルアップを図っています。



お客様からの高評価獲得を目指す

アーレスティではグループ共通ルールAhresty Standardsの構築に取り組み、グローバル全拠点で同一品質のものづくりを目指しています。そのためには「ものづくりの基本を守り、自工程保証度を向上させる」ことが重要だと考えています。新規製品においては、設計との連携を強化し生産準備の質を上げることで、量産時の安定した品質と生産性の向上を目指します。また量産品においては、工程QC表と実作業の検証による各プロセスの改善により製造工程での品質のばらつき低減を進めています。20年度においてはグローバル全体のクレーム件数は前年比約25%削減となりました。アーレスティは今後も常に安定した品質の製品を提供していくことで、お客様からの高い信頼につなげていきます。また、お客様からの高い評価は、アーレスティで働く従業員一人ひとりのものづくりに対する誇り、やりがいにもつながるものと考えています。

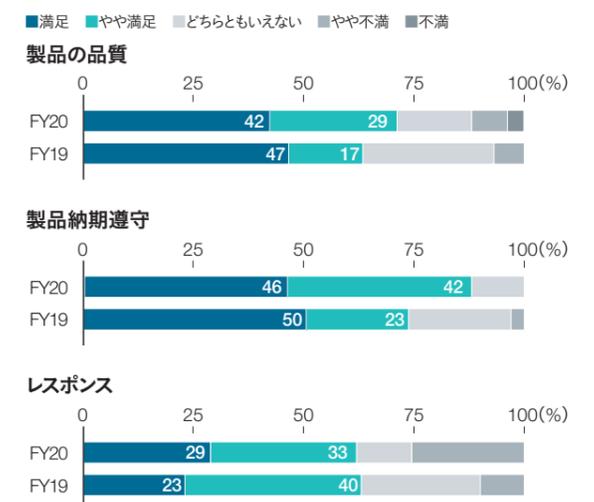
2020年度 主な表彰・受賞



- 株式会社SUBARUより「品質生産協力賞」を受賞
- トヨタ自動車株式会社より「品質管理活動 感謝状」を受賞
- 日産自動車株式会社より「優良品質 感謝状」を受賞
- Toyota Kirloskar Motor Indiaより
・ZERO Defect(不良納入0個) ・Quality(品質) ・Delivery(納入)の3部門でアワードを受賞
- スズキ株式会社より「海外貢献賞」を3年連続受賞
- JATCO Mexico, S.A. de C.V. より「ベスト・パフォーマンス賞」を3年連続受賞
- いすゞ自動車株式会社より「品質優良賞」を受賞
- 三菱自動車工業株式会社より「コスト優秀賞」を受賞
- 株式会社山田製作所より「優良感謝賞」を受賞

2020年度 顧客満足度アンケート調査結果(抜粋)

調査期間:2020年12月~2021年1月
調査対象:国内主要顧客
回答数:20社24名



生産性向上、品質向上による稼ぐ力のアップ

「最適な良品製造条件(OPCC)でのものづくり」の実現による生産性向上、製造原価の低減を推進していきます。また生産体制の合理化・省人化、在庫の削減など価格競争力の強化に結び付けていきます。



OPCCの実現による生産性の向上

最適な良品製造条件OPCC[※]でのものづくりプロセスの実現を目指し、生産性向上・不良率低減に取り組んでいます。1921中期経営計画の3カ年で取り組むOPCCの対象分野は「素材・金型設計」、「工程設計」、「製造条件設定」、「設備・金型保全・作業管理」など各工程にわたります。こうした工程においてサイクルタイム短縮、不良低減、稼働率向上、維持管理などを目的に課題を抽出し、これまでの活動データを基に、期待効果の大きな施策から優先的に取り組み、生産性・品質向上を図ります。

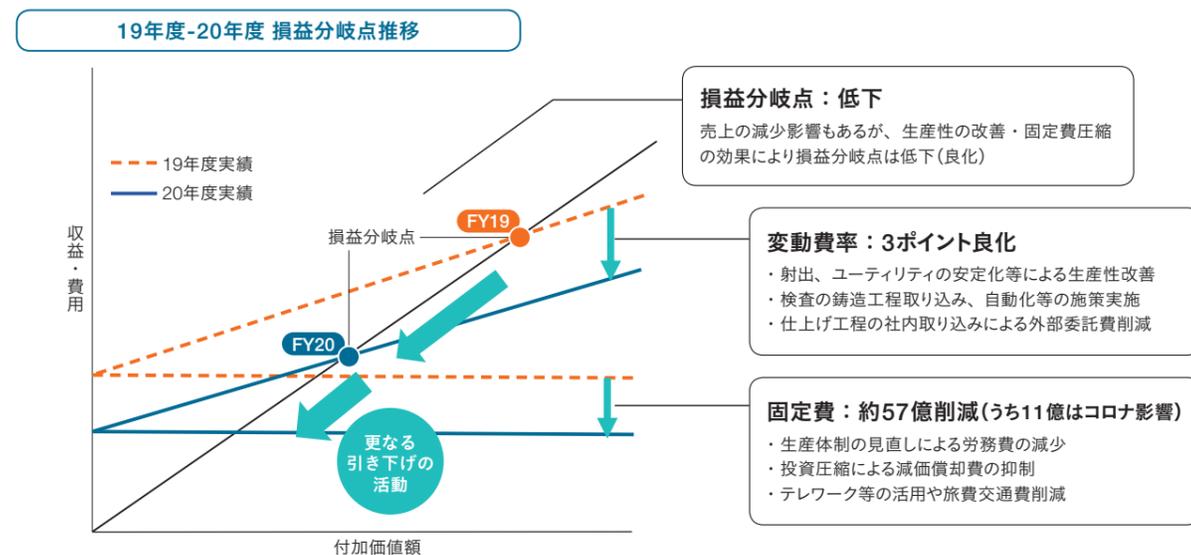
※Optimal Process Condition Control

【 OPCC活動取り組み事例 】

部署間の連携を強化し、横断的に改善活動を推進するために、各生産拠点でクロスファンクショナルチームを編成しています。効果の高い活動においては維持管理・再発防止を行いながら活動をグループ全体に共有し、生産性・品質向上につなげています。

自動車市場の変化に対応した収益体質への改善

19年度からの中期経営計画でリーン生産体制の推進により、損益分岐点が低下。20年度通期では固定費の減少だけでなく、生産性の改善で変動費率も良化。



企業の成長を支えるひとつづくり

作業環境の改善により、災害や事故のない安全で心身共に健康で動きやすい快適な職場づくりを実現していきます。また、グローバルで活躍できる人材の育成に組み込み、やりがい・誇りを持ちながら会社と従業員が共に成長できる企業を目指します。

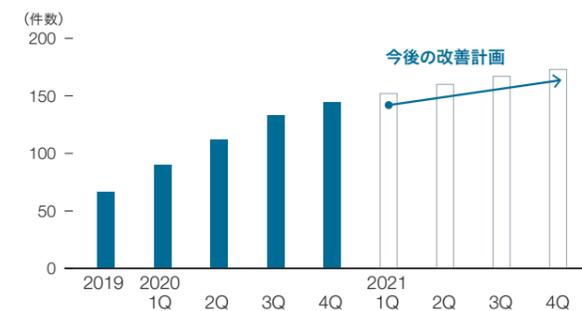


⇒P28.成長と働きがいを感じられる風土づくり

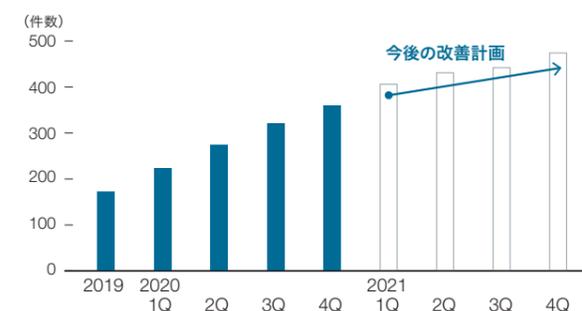
作業負担の低い職場(エルゴノミクス)の実現

身体的に負荷の高い作業を減らし、働く人が安全で動きやすい職場をつくることを目的に、継続的な作業現場の改善を実施しています。重い工具や荷物を取り扱う作業を中心に負荷を低減、自動化やからくり機構を使い生産効率の向上も視野に入れ、改善に取り組んでいます。改善の効果確認として、自社独自のエルゴノミクス評価基準による作業負荷定量評価と、実作業への改善に対する満足度を確認しています。

湯口折り作業改善3カ年の計画件数



重量物・キツイ姿勢改善3カ年の計画件数



快適作業環境の実現

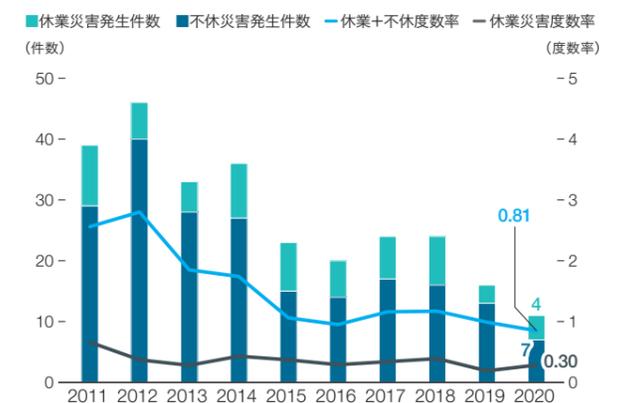
快適作業環境の実現に向けて、空調設備の設置や暑熱・寒冷を改善する設備・グッズの導入による体感温度の改善と、鋳造・加工工程における打撃音やエアブロー音を中心に騒音値を低減する活動を実施しました。改善の検討に際しては、騒音波形データ分析からの改善シミュレーションを行い、的確な対策が進められるような工夫も行っています。

労働災害・事故の撲滅

アールスティでは、安全最優先の原則の下「労働安全衛生方針」および「アールスティ安全理念」を掲げ生産活動を行っています。「見つけよう!作業に潜む危険箇所。ルールを守って、安全考動!!」を2019~2021年度の3カ年の安全スローガンとし、安全教育や安全パトロールの実施、設備の安全機能改善、火災・事故を防ぐ基礎教育などを重点的にを行い、全社を挙げて安全で動きやすい職場を目指しています。



労働災害推移



※度率率=災害件数×1,000,000÷延べ労働時間
※2017年度より、エルゴノミクスに関する災害についてもカウント対象としています
※2018年度より、自社構内における請負工事業者の労働災害についてもカウント対象としています

「自動車の軽量化に貢献するアーレスティ」を目指す

BMSE(Block エンジンブロック、Mission トランスミッション、Structure 構造部品、Electric 電動化部品)を中心に経営資源・強みを踏まえ、地域ごと・顧客ごとに合わせた最適な営業活動を実施

事業環境・市況

2020年度の世界経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて大きく減速しました。中国においては、いち早く経済活動が再開され景気の回復が見られましたが、米国や欧州においては、景気持ち直しの動きの過程における感染の再拡大、ロックダウン等の影響で全般には低調な推移となりました。我が国経済においても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を色濃く受け、経済活動の停滞に伴う内需の減少や輸出鈍化により景気は大きく悪化することとなりました。第1四半期を底に回復基調にはありますが、新型コロナウイルス感染症の再拡大や半導体不足による自動車生産への影響など、先行きについては依然不透明な状況が続いております。また、2020年10月、「2050年までに温室効果ガスの実質ゼロ」の目標を日本が宣言しました。同様に各国の環境対策が進み、自動車メーカー各社から電動化目標の発表や新型電動車の発売も続き、車両電動化が加速しています。

今期の業績

ダイカスト事業 日本

日本自動車市場では、今年度上半期は当社主要顧客である自動車メーカーを含む多くの顧客で、新型コロナウイルス感染症拡大による操業停止や生産調整が断続的に実施され、当社もこの影響を受け、受注量が大幅に減少しました。下期は徐々に受注量を取り戻し第3四半期では前年同期水準まで回復したものの、第4四半期において半導体不足による自動車生産の減産影響等を受けた結果、売上高は45,584百万円(前期比23.4%減)となりました。収益面においては、製造コストの削減等に努めたものの、売上高減少の影響が大きく、セグメント損失2,491百万円(前期はセグメント損失444百万円)となりました。

ダイカスト事業 北米

北米自動車市場では、新型コロナウイルス感染症拡大による主要顧客の操業停止が、当社受注量に大きく影響を及ぼしました。米国工場では、米国での新型コロナウイルス感染症拡大が続く中で感染症拡大防止による主要顧客のシャットダウンが相次ぎ、当社も一時生産調整を余儀なくされましたが、下期は徐々に受注量を取り戻し回復基調にあったものの、第4四半期において半導体や寒波による原材料供給不足などによる自動車生産の減産影響を受け当社の受注量も大きく減少する結果となりました。また、12月決算期のメキシコ工場においては、上期は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う政府によるロックダウンが行われた影響により当社も操業停止を余儀なくされるなど、受注量が大幅に減少しましたが、下期においては受注量を取り戻し前年同期水準まで回復した結果、通期においても黒字を確保しました。

以上の結果、売上高は21,628百万円(前期比29.4%減)となりました。収益面においては、製造コストの削減等に努めたものの、売上高減少の影響が大きく、セグメント利益94百万円(前期比85.0%減)となりました。

ダイカスト事業 アジア

12月決算期の中国工場では、第1四半期(1月~3月)における新型コロナウイルス感染症拡大による一部都市の封鎖や、各地での外出規制の実施、また、主要顧客である自動車メーカーの操業停止の影響により、自動車販売台数、生産台数共に大幅に減少しましたが、第1四半期での大きな落ち込みから徐々に回復の兆しが見え始め、下期以降は前年同期の受注量を上回り黒字を継続する状態まで回復しました。一方、インド工場においては、上期は新型コロナウイルス感染症拡大により、感染防止策として政府によるインド全土でのロックダウンが行われた影響で、当社も操業停止を余儀なくされるなど受注量が大幅に減少し、下期においても受注量は前年同期比17%減での推移となり回復途上の結果となりました。

ダイカスト事業セグメント別実績

(単位:百万円)

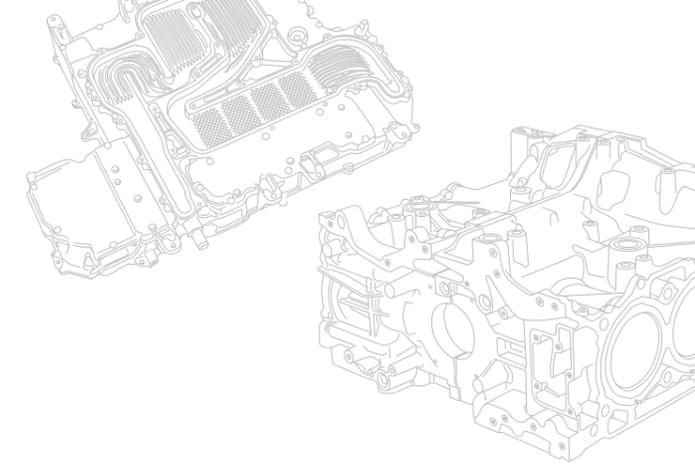
	2020年度	上期	下期	通期
日本	売上高	18,204	27,380	45,584
	セグメント損益	△2,719	228	△2,491
北米	売上高	8,610	13,018	21,628
	セグメント損益	△323	417	94
アジア	売上高	7,603	12,328	19,931
	セグメント損益	△959	361	△598

※北米セグメントのメキシコ工場およびアジアセグメントの中国2工場は12月決算

1921 中期経営計画方針戦略への取り組み

「BMSEを中心として売り上げを確保する」を柱に、地域ごと、顧客ごとに合わせた最適な部品群を抽出し営業戦略を立案・実施しました。20年度は、環境意識の高まりから各国で環境規制が強化、国内外の自動車メーカーから電動化へのシフトが発表されました。当社においても電動化部品の受注拡大を目指し、営業活動を強化。国内外で電動化部品の量産を開始しました。

2015年よりトヨタ自動車と開発を進めてきた新型MIRAI向けコンバーターケース/リアクタークーラーケース(casting: 東海工場、加工: アーレスティプリテック、金型: アーレスティダイモールド浜松)の量産を開始。また、海外においても北米拠点(アーレスティウイリントン)で2020年6月より初の電動化部品(インバーターケース/コンバーターケース)の量産をスタートしました。トヨタ新型シエナ(HEV)、フォード マスタング・マッハE(EV)に搭載、車両販売を開始しました。21年度も国内外において電動化部品の量産が立ち上がります。今後も積極的に営業活動を進め、電動化を中心とした「自動車の軽量化に貢献するアーレスティ」を目指します。



来期への展望

従来の製品の受注活動に加え、引き続き電動車(EV・HEV・PHEV・FCV)向け製品・電動化部品の受注拡大と、成長市場である中国地域での競争力強化に注力していきます。また、構造部品においても営業活動を強化し、顧客ニーズの把握と技術開発、受注に向けた取り組みを行っていきます。

電動車搭載部品の売上シェア

電動車搭載部品の受注拡大を目指し、営業活動を強化



電動車搭載車種紹介

- [HEV] **XV (SUBARU)**
エンジンブロック/モーターケース/メインケース/エクステンション等 6部品
- [HEV] **VEZEL (HONDA)**
TMサイドカバー/PCUカバー、PCUケース等 9部品
- [HEV] **FIT (HONDA)**
TMサイドカバー/PCUカバー、PCUケース等 7部品
- [HEV] **YARIS / YARIS CROSS (TOYOTA)**
クランクケース/ベースプレート
- [PHEV] **OUTLANDER (MITSUBISHI)**
フロントフレーム/ジェネレーターフレーム
- [PHEV] **ECLIPSE CROSS (MITSUBISHI)**
ラダーフレーム/チェーンケース
- [PHEV] **RAV4 PHV (TOYOTA)**
インバーターケース/コンバーターケース
- [EV] **Mustang Mach-E (FORD)**
インバーターケース
- [FCV] **MIRAI (TOYOTA)**
コンバーターケース/リアクタークーラーケース
- [FCV] **CLARITY (HONDA)**
VCUケース/PCUケース



生産ノウハウの深化を進め他社に負けない合金工場へ

蓄積した知見とデータでさらにものづくり技術の深化を進め生産性向上、収益改善

事業環境・市況

2020年度の日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて急激に悪化しました。持ち直しの動きが見られるものの、経済の水準は新型コロナウイルス感染症前を下回った状態に留まり、国内の自動車メーカーの生産減少に伴いアルミニウム合金地金の需要は減少しました。一部産業によっては回復傾向が見られるものの、半導体・コンテナ不足、アルミニウム市況など需要動向は不透明な状況です。

今期の業績

アルミニウム事業においては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う自動車生産の減産が大きく影響し、下期は回復基調となったものの通期の販売重量は前年同期比で9.9%減となった結果、売上高は3,483百万円(前期比12.8%減)となりました。収益面においては、売上高減少による影響等により、セグメント利益は33百万円(前期比80.3%減)となりました。

1921中期経営計画方針戦略への取り組み

「アーレスティ10年ビジョン」の「信頼を究めよう2025」を基本方針に、熊谷工場では地金製造における生産性向上・原価低減活動に取り組んでいます。「最適な合金生産計画・溶解方法による生産性改善」を目標に、19年度より進めてきた合金回数、歩留誤差、溶解速度の改善等各活動に設定したKPIを捉えて改善を進めました。中期経営

計画最終年度である21年度は目標達成に向けて、よりスピード感を持って活動に取り組めます。中でも、合金生産工程におけるエネルギー効率をアップし燃費改善を図る取り組みにおいては、当社のSDGs重要取り組み課題「エネルギー効率の改善等による使用化石燃料資源の低減(7)」と連動して環境保護・社会課題解決の観点からも注力し推進していきます。今後も安全第一に、ものづくりで他社に負けない合金工場を目指します。

来期への展望

スクラップのリサイクルによって再生されるアルミニウム二次合金の供給は、環境負荷軽減においても重要な役割を担っています。環境意識の高まりから各種産業からのニーズは増加する一方で、相場の変動から、輸入塊の増加やスクラップの輸出など市況変動の要因となる課題もあります。21年度は、生産性改善・原価低減に寄与する技術ノウハウの深化を進め、需要に対する柔軟な増減対応、市況に左右されないリーナな体質強化を図ります。



緑の多い熊谷工場

地球環境に優しいアルミニウム

アルミニウムは、何度でもリサイクルして利用できる貴重な資源です。アーレスティ熊谷工場ではダイカスト工場生産されたダイカスト製品が市場で使用され、その製品の使命が終わったときに工場に新しい原料として生まれかわるアルミリサイクルの流れの一部を担っています。また、私たちは

製造工程においても環境負荷の低減を図るため、環境目標を定め、生産活動を実施しています。

→P22.環境に優しい企業を目指して



10年以上連続クリーンルーム向け国内シェアNo.1!

中国をはじめとしたアジア市場での売り上げ拡大を目指し、営業力強化

事業環境・市況

2020年度の日本国内のフリーアクセスフロア(アルミニウム)市場は、前年比115%と増加しました。新型コロナウイルス感染症の影響による施工工事中止や延期もほとんどなく、自動車の自動運転やIoT、AI、5Gなどクラウドサービス拡大によるデータセンター市場の拡大や、半導体の供給体制強化のためのクリーンルーム需要によるものと考えられます。今後ますますアルミ床の需要は高まると予測しています。

今期の業績

完成品事業においては、主要販売先である半導体関連企業のクリーンルーム物件や通信会社のデータセンター向け物件等の受注が減少し、売上高は2,345百万円(前期比9.9%減)となりました。収益面においては、販売管理費の削減等により、セグメント利益は320百万円(前期比15.4%増)となりました。

1921中期経営計画方針戦略への取り組み

中国市場をターゲットに、20年度は市場が必要としている品揃え強化のための新商品開発を進めました。中国市場基準を考慮したクリーンルーム向け高強度高性能の2商品を開発。2021年4月より中国市場で販売開始しました。中国・合肥工場を中心に製販一体となって売り上げ拡大を目指します。一方、国内においては、戦力強化のために人材育成を図っています。2021年度は更にそのスキルを高め、新規

幅広い納入実績を誇るモバフロア

アーレスティは1962年、日本で初めてのフリーアクセスフロア“モバフロア”を開発以来、半世紀以上フリーアクセスフロアの研究・開発に取り組んできました。モバフロアは、北海道から沖縄県まで日本国内全ての都道府県に納入され、各地のクリーンルーム、データセンター、工場、オフィス

商流にも積極的にアプローチし、販路拡大を図ります。

来期への展望

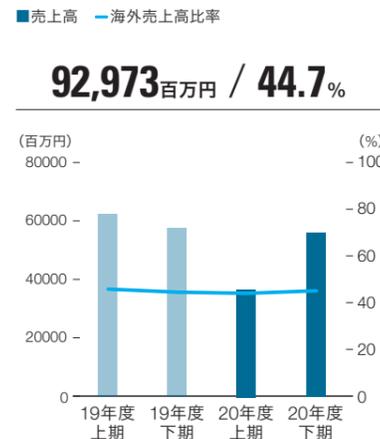
国内においては、クリーンルーム・データセンターを中心に営業活動を継続しつつ、海外においては、中国市場だけでなく東南アジア市場にも積極的に営業活動を展開します。2021年度は日本国内・海外共に市場が旺盛であると予測しており、中国・合肥工場及び東松山工場の双方のモバフロア生産能力・設備を有効活用し売り上げ拡大につなげるよう取り組んでまいります。

自社開発製品モバフロア
(フリーアクセスフロア)

クリーンルーム向け
国内シェア
No.1!

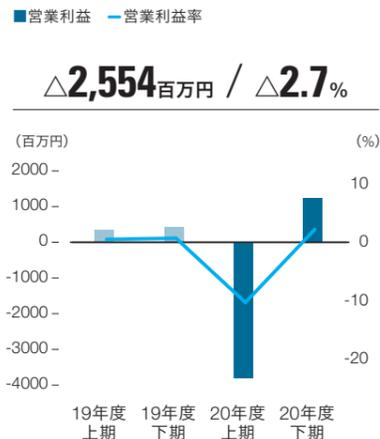
など幅広く活用され、クリーンルームにおいては、10年以上国内シェアNo.1の実績を誇ります。また、東京都庁、東京スカイツリー、横浜ランドマークタワー、関西国際空港などにも採用されています。

売上高／海外売上高比率



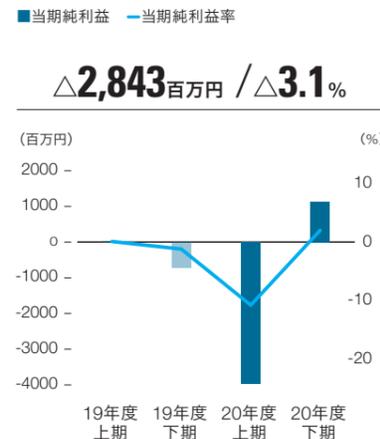
下期売上高は回復しましたが上期の新型コロナウイルス感染症拡大、ロックダウン等の影響を受け、前年を大きく下回る結果となりました。

営業利益／営業利益率



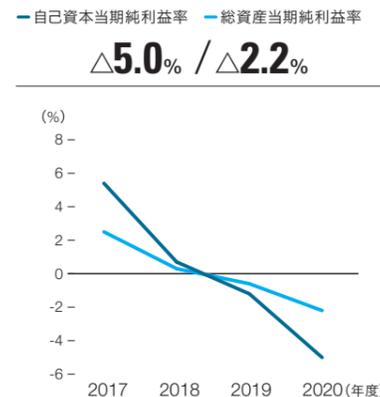
上期は売上高の減少により営業赤字を余儀なくされましたが、下期売上の回復、生産性向上と原価低減活動による収益体質の改善が進み、黒字回復となりました。

当期純利益／当期純利益率



下期は営業利益の黒字化により、11.3億円の黒字を回復し、配当も期末配当で5円の復配といたしました。

自己資本当期純利益率(ROE)／総資産当期純利益率(ROA)※1



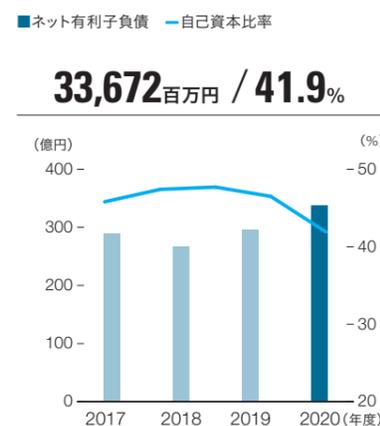
売上高の大幅な減収等により当期純利益はマイナス計上、それに伴いROE/ROAともにマイナスとなりました。

営業キャッシュフロー／フリーキャッシュフロー※2



営業CFの減少に対して、遊休設備の活用等を積極的に行うことで設備投資を抑制し、投資CFも削減しましたが、20年度のFCFはマイナスとなりました。

ネット有利子負債／自己資本比率



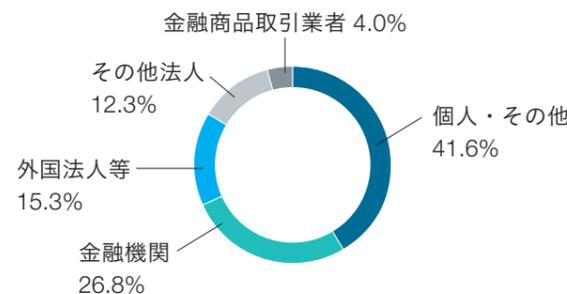
新型コロナウイルス感染症拡大に対し、手元の現預金を増やしたことで有利子負債、現預金とも増加しました。ネット有利子負債は41億円増、自己資本比率は期末時点で41.9%となりました。

(2021年5月31日現在)

株式数および株主数

発行可能株式総数：60,000,000株
発行済株式の総数：26,076,717株
株主数：6,132名

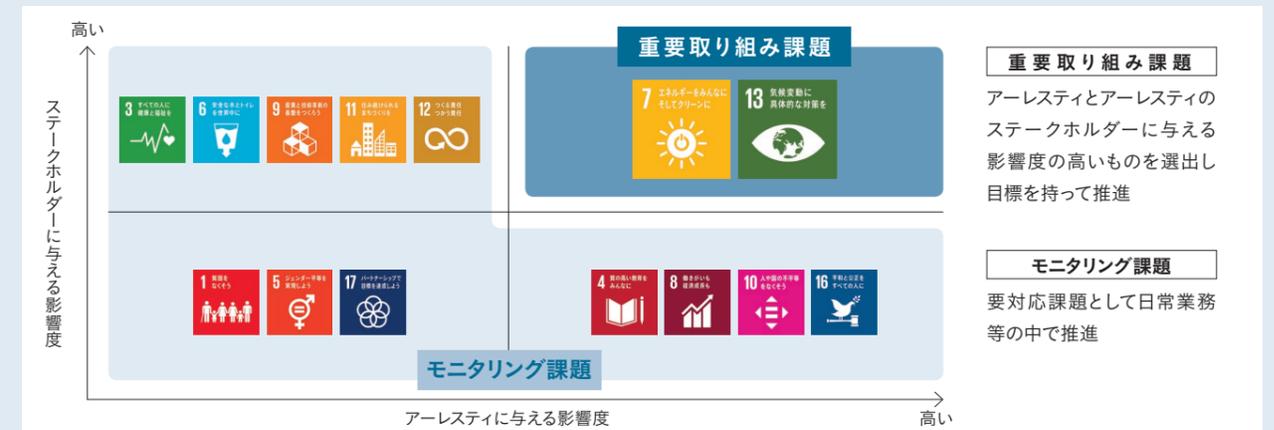
所有者別株式分布状況



※1 2019年3月期の期首より、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等を適用したため、2018年3月期については、遡及適用後の数値を記載しております。
※2 フリーキャッシュフロー=(営業活動によるキャッシュフロー)-(投資活動によるキャッシュフロー)

持続的な成長のために

アーレスティが企業として社会的責任を果たし、持続的に成長していくためには、強みを生かし事業活動を通じて社会課題に対応していくことが重要であると考えています。



アーレスティの重要取り組み課題

アーレスティの重要取り組み課題は、国連サミットで決定された国際社会共通の目標「SDGs(持続可能な開発目標)」の目標7と目標13です。SDGsを、ステークホルダーに与える影響度とアーレスティに与える影響度の2軸で整理し、社会課題解決に対して貢献度が高く、かつアーレスティの事業であるアルミニウムダイカスト製品製造との関連性が大きいことから、2020年3月に取締役会の承認をもって当社の重要取り組み課題に決定致しました。2030年をターゲットに、目標7では「エネルギー効率の改善等による使用化石燃料資源の低減」、目標13では「アルミダイカスト製品供給によるクルマのエネルギー消費効率向上」に取り組んでまいります。

サステナビリティ会議で重要取り組み課題のKPIを決定

アーレスティでは、ステークホルダーの期待に応えることでのさらなる信頼の獲得と、事業を通じた社会課題の解決による持続的な成長を目的に、2020年度より管理本部管掌取締役を議長、検討項目に関連する委員会、部門長をメンバーとした「サステナビリティ会議」を開催。初年度にあたる2020年度は、アーレスティの重要取り組み課題のKPIの検討を中心に会議を行いました。「エネルギー効率の改善等による使用化石燃料資源の低減」では、省エネ施策の推進と生産性改善の推進によるエネルギー使用量の削減、再生可

能エネルギー並びにCO₂発生量のより少ないエネルギーの使用によるエネルギー転換によって生産工程におけるエネルギー効率アップに取り組みます。「アルミダイカスト製品供給によるクルマのエネルギー消費効率向上」では、電動化部品を含む電動車(EV・HEV・PHEV・FCV)への部品の供給、ボディ・足回り部品の供給により、自動車の電動化の促進と軽量化による燃費・電費改善を通じCO₂排出量削減に貢献していきます。

2030年の姿 電動車への搭載比率拡大

		実測値指標 (KPI)
アルミダイカスト製品供給によるクルマのエネルギー消費効率向上	電動化・軽量化への貢献	自動車(EV・HEV・PHEV・FCV)への部品の供給
		ZEV(EV・FCV)への部品の供給
		ボディ・足回り部品の供給

生産工程におけるエネルギー効率アップ

		実測値指標 (KPI)
エネルギー効率の改善等による使用化石燃料資源の低減	エネルギー使用量の削減	省エネ施策の推進
		生産性改善の推進
エネルギー効率の改善等による使用化石燃料資源の低減	エネルギー転換	再生可能エネルギー並びにCO ₂ 発生量のより少ないエネルギーの使用

環境に優しい企業を目指して

環境に優しい企業の実現を目指し、公害防止活動や製造工程での省エネルギー・省資源への様々な取り組みを行っています。



環境方針

1. 私たちは私たちの開発、生産、販売、廃棄の活動が地球環境と深く関連し影響を与えていることを明確にとらえ、環境目的・目標・実施計画を定め、それらを必要に応じて見直し、環境保全活動の継続的な改善をはかります。
2. 私たちは国・地方公共団体・利害関係者などの環境規制、規則、協定などの要求事項を順守し、さらに技術的・経済的に可能な範囲で自主基準を定め、一層の環境保全に取り組めます。
3. 私たちは特に次の項目について優先的に活動し、環境保全と汚染予防に取り組めます。
 - ① 大気汚染、水質汚濁に関する施設・工程の管理・改善を徹底します。
 - ② 廃棄物の再資源化率100%を維持します。
 - ③ 廃棄物総排出量の減量、アルミリサイクル事業の拡大を推進し、循環型社会へ貢献します。
 - ④ CO₂排出の抑制をはかり、地球温暖化への配慮をします。
 - ⑤ 環境に配慮した製品及び商品の開発・設計に取り組めます。
4. 私たちは従業員一人ひとりの環境保護意識の向上をはかるため、教育・啓蒙活動を継続的にを行います。
5. 私たちは良き企業市民として、地域社会の環境保全に努め、地域との共生をはかります。

2020年度国内工場環境目標と実績

製造工程での環境負荷の低減を図るため、環境目標を定め、生産活動を実施しています。2020年度、各種改善活動は進められましたが、新型コロナウイルス感染症等の影響もあり生産量が大幅減となった結果、各管理項目で総量は減少傾向となりましたが、原単位は悪化は見られていません。

環境区分	1921中期経営計画環境目標	2020年度目標	2020年度結果	評価※	2021年度目標
大気、水質 騒音等	大気汚染、水質汚濁、騒音公害などの環境問題を発生させない	社外流出、苦情の不適合をゼロにする。	社外流出の不適合はゼロ。苦情の不適合は騒音・振動関連で4件発生した。いずれも是正処置済み。	1	社外流出、苦情の不適合をゼロにする。
廃棄物	廃棄物の総量削減を進める	サイトごとの原単位目標設定とする。 ※再資源化率についても、監視と必要な正活動を続けていく。	対象11事業所中、4事業所で目標達成となった。	2	サイトごとの原単位目標設定とする。 ※再資源化率についても、監視と必要な正活動を続けていく。
省エネ 省資源	地球温暖化対策として、CO ₂ 総量削減を行う	サイトごとの原単位目標設定とする。 ※海外事業所においては、19年度比1.0%削減以上の目標設定とする。 ※電気需要平準化評価原単位についても、監視と必要な正活動を続けていく。	対象11事業所中、2事業所が目標達成となった。 ※電力係数は固定値で評価	2	サイトごとの原単位目標設定とする。 ※海外事業所においては、19年度比1.0%削減以上の目標設定とする。 ※電気需要平準化評価原単位についても、監視と必要な正活動を続けていく。
		工程に使用する水の使用量を削減する	サイトごとの目標設定とする。 ※海外事業所においては、19年度比1.0%削減以上の目標設定とする。	対象の7事業所中、3事業所が目標達成となった。	2
その他	社会貢献活動を推進する	環境に関する社会貢献活動について、事業所ごとに、開催回数目標値を設定する。 ※環境に関する社会貢献活動とは、地域の清掃活動や里山保存活動などを指す。	13事業所中2事業所で目標達成となった。 ※開催した事業所においては、新型コロナウイルス感染症防止策を行ったうえで実施	1	環境に関する社会貢献活動について、事業所ごとに、開催回数目標値を設定する。 ※環境に関する社会貢献活動とは、地域の清掃活動や里山保存活動などを指す
		敷地内の緑化を充実する	アールスティ緑化指針を参考とし、各サイトで景観を意識した緑化活動の定着を進める。	全サイトにて、景観を意識した緑化活動が推進・維持された。社内外のコミュニケーション活性にもつながった。	5

※目標達成度 1(未達成)<5(達成) ※グローバルでの環境管理のため、海外工場においても、CO₂削減、水使用量の削減など、国内同様の対象区分で環境目標を策定しています。

環境意識の向上

アールスティでは、環境に関する啓蒙活動やコミュニケーション活動を実施し、従業員の環境意識の向上に努めています。

アールスティ・グリーン大会

アールスティ・グリーン大会は、環境方針の下に行う環境に関する広い分野の改善事例報告会です。報告された効果的な取り組みは他事業所にも水平展開され、グループ全体で活動を行い、環境負荷を低減、地域社会の環境保全に努めます。

第18回アールスティ・グリーン大会 改善事例

事業所	テーマ
アールスティプリテック	廃水処理機更新による水使用量の削減
アールステック/サービス	電力量の見える化と省エネ意識の向上
東海工場	T6熱処理工程 ガスと電力の削減
アールスティ熊本	保持炉電気使用量の削減
東松山工場	生産量に応じたエネルギー使用量の削減
アールスティダイモールドグループ (アールスティダイモールド栃木)	図面ペーパーレスによる廃棄物の削減
アールスティ山形	エネルギー原単位の削減
熊谷工場	廃棄物の削減
アールスティ栃木	1号炉溶解原単位の低減

カーボンニュートラルに向けて

2021年3月よりアールスティプリテック東海工場(第一工場)へ太陽光発電システム(4,997㎡/パネル数:1380枚/定格出力420kW)を導入、稼働開始しました。アールスティは今後もエネルギー転換を含め環境に配慮したものづくりを推進していきます。



実績推移 (国内工場)

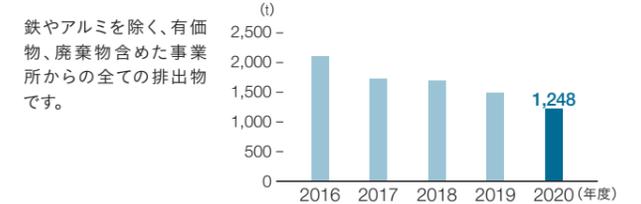
CO₂排出量※



CO₂排出量原単位※



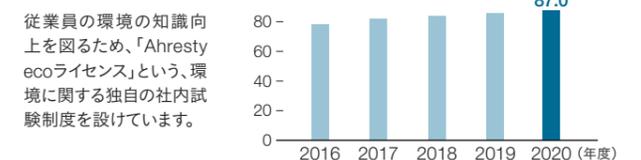
排出物量



水使用量



Ahresty eco ライセンス取得率



コーポレートガバナンス強化への取り組み

アーレスティはガバナンス強化に取り組み、アーレスティグループ全体での収益力の拡大と経営と資本の効率を高め、企業価値の増大を目指しています。



アーレスティは、株主の皆様をはじめ、全てのステークホルダーに対する経営責任と説明責任を明確にするとともに、高い透明性を持ち、迅速な意思決定が可能な経営体制を確立することをコーポレートガバナンスの基本的な方針と考えています。また内部統制システムとリスク管理体制を充実させ、グループ全体の事業活動にも管理監督を行う経営システムの構築に努めています。

2015年より監査等委員会設置会社に移行し、2018年には「譲渡制限付株式報酬制度」や「取締役会実効性評価(アンケート方式)」の導入、2019年には取締役の選解任や報酬、取締役候補の要件等について議論する指名報酬委員会を設置するとともに、2021年には同委員会の委員長を社外取締役に交代するなどコーポレートガバナンス強化への取り組みを進めてまいりました。また利益配分について、中長期的な事業発展のための財務体質と経営基盤の強化を図りつつ、適正な株主還元を行っていくことを基本方針としています。2020年度上期の中間配当は、新型コロナウイルス感染症による急激な外部環境変化を受け、誠に遺憾ながら無配とさせていただきますが、下期以降の業績回復を受けて一株当たり5円の配当といたしました。生産性向上とリーント体制推進による体質強化、電動化市場で成長し続けるための事業戦略によるキャッシュフロー創出、効率的な投資等によるキャッシュフロー管理により株主還元の充実を図ってまいります。

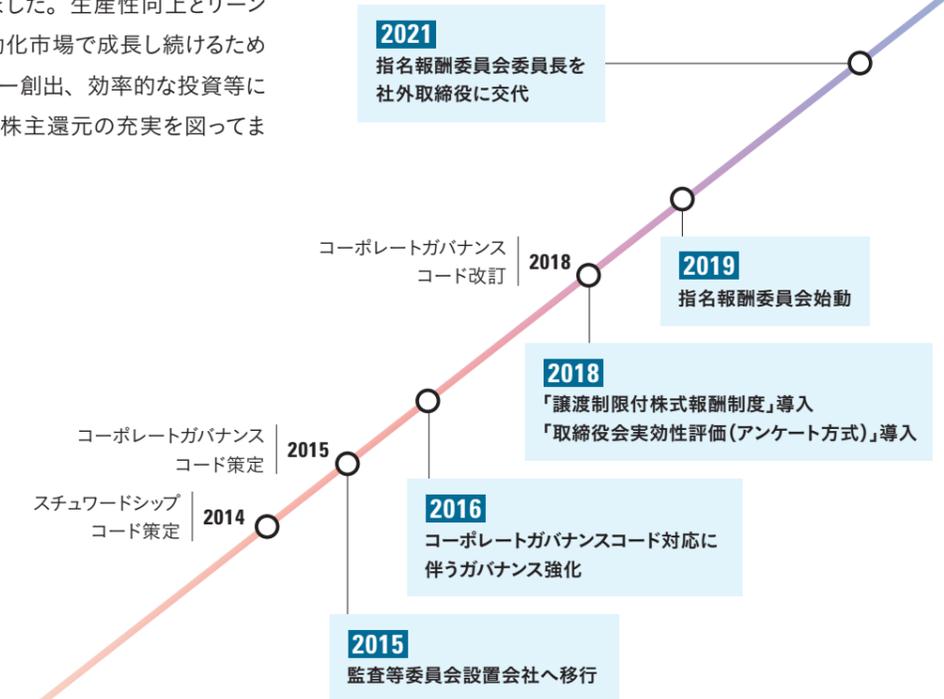
コーポレートガバナンス体制

取締役会(10名)	
取締役 (監査等委員である取締役を除く)	5名
監査等委員である取締役	5名 (うち、社外取締役4名)

指名報酬委員会(6名)	
社内取締役	2名
社外取締役	4名

※2021年3月22日開催の取締役会の決議により委員長を社外取締役にいたしました。

コーポレートガバナンス改革の変遷



マテリアルフロー

生産活動に必要なエネルギー、資材と生産に伴う排出。製造工程での環境負荷低減のために必要なコストをかけ、設備等の導入を行っています。

※国内事業所データ

INPUT(使用)



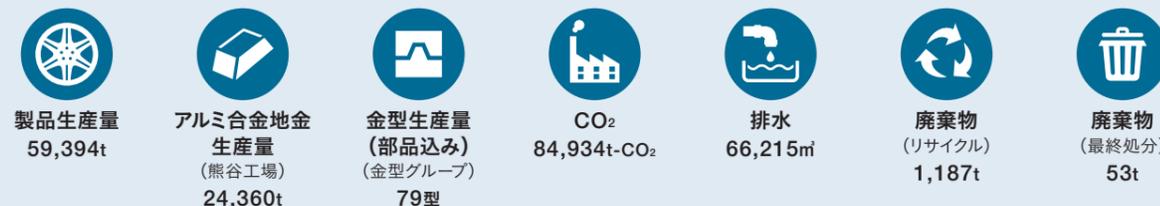
※電力のCO₂排出係数は、最新の電力会社公表値(2019年度値)を使用。

集計範囲:2020年4月1日~2021年3月31日 (単位:千円)

環境保全コスト				
分類	主な取り組みの内容	投資額	費用額	
(1) 事業所エリア内コスト				
内訳	(1)-1 公害防止コスト	排水処理設備管理・更新・設備導入、排ガス処理及び集塵装置の維持管理、騒音対策	13,170	40,180
	(1)-2 地球環境保全コスト	省エネ活動(電気、重油)、省エネ設備導入、工場緑化、維持電力監視モニター	44,098	24,741
	(1)-3 資源循環コスト	水の循環利用、廃棄物・資源ごみの処理(分別・処分)、再生油の使用	24,118	173,934
(1)小計		81,386	238,854	
(2) 上・下流コスト	グリーン購入額	1,272	36,388	
(3) 管理活動コスト	環境委員会、内部監査、ばい煙・ダイオキシン・排ガス・騒音測定、社内教育訓練、ISO14001認証維持	0	16,806	
(4) 研究開発コスト	合金協会(環境保全テーマ)、地金中環境負荷物質調査	0	0	
(5) 社会活動コスト	工場見学の受け入れ、地域清掃活動、近隣コミュニケーション活動、ボランティア活動、NPO寄付	0	128	
(6) 環境損傷対応コスト	汚染負荷量賦課金	0	2,927	
(2)~(6)小計		1,272	56,248	
(7) 【収入】上・下流コスト	有価物売却額(鉄くず、廃プラ、シェル、廃油、廃紙などの買い取り総額)	0	56,026	
(1)~(6)合計		82,658	295,102	

※投資は設備等固定資産になるもの、その他は費用として算出

OUTPUT(生産・排出)



取締役会の実効性に関する分析・評価

取締役会では、経営戦略やコーポレートガバナンス、設備投資等の様々な経営課題、業務執行について、社外取締役からの意見を交えながら活発な議論を行っており、2020年度には取締役会(書面決議の1回を除く)を14回開催しました。アーレスティは取締役会の監督機能を高め実効性向上に取り組むために、取締役会の実効性評価を行っています。また、グローバル展開における事業環境の変化や事業規模の拡大に応じて、取締役会に必要な役割等についても常に議論し、加えてアンケート方式での取締役による取締役会の自己評価を実施しています。2021年1月に実施したアンケートでは前回(2019年度実施)よりも評価は改善しました。その中で「新任の取締役のトレーニング」「経営・事業戦略のアップデート」、業績モニタリングにおける「外部視点の積極的な活用」「情報の質・量の定期的な見直し」については、課題として認識し、改善に向けた取り組みを行っています。

取締役会の自己評価アンケート評価項目(抜粋)

取締役会の構成と運営	適切なメンバー構成 議案の適切さ 自由闊達な議論 新任の取締役のトレーニング
経営戦略と事業戦略	内外の事業環境情報の提供 審議時間の確保 経営・事業戦略のアップデート
業績のモニタリング	業績指標 外部視点の積極的な活用 情報の質・量の定期的な見直し

評価結果と今後の取り組み

取締役会実効性評価 全体評価結果	取締役会においては適切な構成であり、中期経営計画などの経営戦略を中心に活発な議論がなされており、実効性は確保されていると評価した上で、改善計画を立てて取り組んでいます。
今後の課題と 取り組み	・経営戦略と事業戦略および業績のモニタリングに係る情報の見直し ・外部視点の積極的な活用 ・取締役トレーニングの拡充

譲渡制限付株式報酬制度による役員報酬

アーレスティは、①アーレスティの企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えること、②株主の皆様との一層の価値共有を進めること、③中長期的な業績目標との連動性を一層高めること、の3点を目的として役員の報酬体系の見直しを行い、2018年度より譲渡制限付株式報酬制度を導入しています。本制度は、アーレスティの中長期的な業績目標達成を条件とする「業績連動型譲渡制限付株式」、一定期間継続してアーレスティの取締役を務めることを条件とする「勤務継続型譲渡制限付株式」により構成されています。「業績連動型」については、執行役員にも導入しており、全社の業績への貢献と報酬の連動性を図っています。譲渡制限付株式の一部を、中期経営計画の達成状況や業績等に基づき報酬額を決定する仕組みとすることで、より中長期的な観点での業績向上や株主の皆様との価値共有を図ってまいります。

	業績連動型 譲渡制限付株式	勤務継続型 譲渡制限付株式
譲渡制限 期間	原則中期経営計画に合わせ 3年	30年
譲渡制限 解除条件	勤務条件 業績条件 ※業績条件:「1921 中期経営計画」で定めた経営指標(売上高、営業利益率、総資産当期純利益率(ROA)、自己資本当期純利益(ROE))で評価	勤務条件

リスクマネジメント

アーレスティは、経営に重大な影響を及ぼすリスクを事前に回避し、また万一発生した場合は、全てのステークホルダーの安全、健康および利益を損なわないよう迅速かつ的確に対処し、速やかな回復を図るとともに、経営資源の保全、被害極小化に努め、もって経営を継続することをリスクマネジメントの基本的考え方としています。また、事業活動におけるリスクに関する「リスク管理規程」を定め、社内外の環境や動向を踏まえたリスクの特定、分析、評価を定期的に行い、重点活動の審議・方向付けやグループ全体のリスク管理体制・仕組みの改善状況の確認を行っています。

リスクの把握と対応

2020年度リスク管理項目として「取引および法令遵守」「災害」「製品・サービス」など11項目のリスクを選定し、各リスクの主管部署を定め、リスクの影響度・発生原因などを明確にして、未然防止や初動対応、復旧対策の強化に取り組んでいます。

2020年度リスク管理項目と対応強化への取り組み(抜粋)

リスク管理項目	事業継続への対応強化施策・取り組み
災害 (台風・豪雨)	「台風・暴風雨来襲時の対応ガイドライン」を策定し、災害時用非常通信機器を導入するなど、災害に対する対応強化を進めています。
コンプライアンス (ハラスメント)	ハラスメント防止による健全な職場環境の維持は社会的な責任であると位置付け、行動規範、未然防止行動ガイドラインを制定するとともに全社員向けに社内研修を実施し、ハラスメントのない職場を目指しています。
情報セキュリティ (情報漏洩)	社内規定を整備するとともに、情報機器管理の強化、情報へのアクセス制限を設けることにより、内部不正や外部からのサイバー攻撃等による情報漏洩を防ぐ対応を進めています。

新型コロナウイルス感染症対策

アーレスティは、新型コロナウイルス感染症が世界的に広がりを見せる中で従業員・お客様・取引先の安心安全を第一とし、事業の継続を行っていくために、以下の組織的な体制・取り組みを推進しています。

1. 全社感染予防・感染拡大防止体制の強化

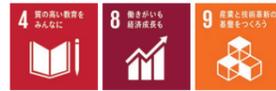
①新型コロナタスクフォース(以下、タスクフォース)設置
国内外全拠点の感染予防・感染拡大防止を推進する組織として、タスクフォースを設置しています。統轄責任者となる取締役を定め、関係部署長で構成し、本部・部署横断による対策の迅速な決定、実行を図る体制を敷いています。
②各拠点コロナ対策班の設置
各拠点においてはコロナ対策班を設置し、拠点長が統轄責任者となり、拠点毎にガイドラインを決定し、タスクフォースと連携して対策を実行・展開しています。

2. 全社対応指針および各拠点ガイドラインの制定・運用

①全社指針・各拠点ガイドラインの制定
国内外全拠点共通の対応指針を策定しグループにおける新型コロナウイルス感染症対策の基本的な事項を定め、これに基づき各拠点がガイドラインを策定しています。
各拠点の統轄責任者となる拠点長は、全社対応指針を理解し、従業員・お客様・取引先の安心安全を第一に、拠点に応じたきめ細かなガイドラインを策定し、感染予防・感染拡大防止に努めています。
②マニュアルの明確化
タスクフォース、各機能部、各拠点で作成した感染予防・感染拡大防止の項目に対して、具体的な方法(例:消毒液作成法・消毒方法等)をマニュアルとして整備・明確化し、有事の際にも迅速な対応がとれるようにしています。

成長と働きがいを感じられる風土づくり

アーレスティは、従業員一人ひとりが心身ともに健康で仕事を通じて成長し、自分の仕事・職場に対して誇りと働きがいを感じられる安心・安全な風土づくりに取り組んでいます。



労働安全衛生方針

トップマネジメントのコミットメント

アーレスティグループの全ての人が安全で健康的に働ける環境を整備し維持するために労働安全衛生マネジメントシステムを構築します。そして各事業所において安全衛生委員会を組織し働く人の声を反映し継続的改善を行います。

私たちの宣言

私たちアーレスティは、

1. アーレスティ安全理念にもとづき活動します。
2. 健康的で災害ゼロの職場を実現するために、労働安全衛生目標を定め活動します。
3. 国、地方自治体などの労働安全衛生要求事項を守ります。
4. リスクアセスメント、教育、訓練、HHKやKY活動など、働く人の労働安全衛生活動への参加を通じ、安全な職場の整備、安全意識の高揚に努めます。

アーレスティ安全理念

1. 安全は、全ての作業に優先する
2. 安全は、いかなる業務よりも重要である
3. 安全は、常に生産効率よりも優先される
4. 安全は、職場の整理・整頓・清掃から始まる

私たち一人ひとりが、この行動指針を実践し、災害・事故ゼロを目指します。

健康経営

アーレスティは経営基本方針を『常に生きいきと活動し 理論と実験と 創意と工夫を尊重して 品質のすぐれた製品と 行き届いたサービスを提供しよう』とし、また、2015年より10年ビジョンに「信頼を究めよう2025」を掲げ企業活動を行っています。期待に応える品質のすぐれた製品、ニーズを汲み取る行き届いたサービスの提供。お客様からの信頼を究めるためには、日々、理論と実験、創意と工夫の積み重ねが必要ですが、それらは全て社員一人ひとりが「常に生きいきと活動する」ことで、成し遂げることができると考えています。アーレスティは、社員とその家族の健康のために、社員の健康促進・維持を経営課題のひとつと位置づけ、「健康経営[※]」を推進します。

※健康経営は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。

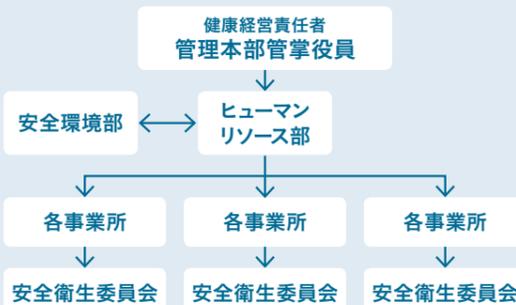
アーレスティ健康宣言

アーレスティは、社員を「人財」であり、当社にとって最も大事な財産だと考えます。

アーレスティは、人財である社員が仕事も私生活も常に生きいきと活動できるように、働きやすい職場環境の整備、ワークライフバランスの向上など、社員とその家族の心身の健康促進と維持を支援する努力を惜しみません。

2020年9月 株式会社アーレスティ
代表取締役 専務執行役員 高橋 新一

アーレスティ健康経営推進体制



ダイバーシティ&インクルージョンの促進

～多様な人材が活躍できる職場づくり～

女性の活躍支援

アーレスティは女性の産前・産後休業、育児休業取得率100%です。また男性の育児休暇取得も推進しています。様々なライフステージにおいて女性従業員活躍のために「産休・育休の取りやすい環境づくり」を行っており、育児中も最長子供が小学校3年生まで短時間勤務が可能で、育児と仕事が両立しやすい環境を整えています。他、フレキシブルな勤務方法の拡充のためにフレックス勤務制度やテレワーク勤務(在宅勤務)、介護休暇制度等も導入しています。

障がい者雇用の促進

アーレスティは、2020年10月1日、グループ内の管理業務の効率化を目的に事務業務を担うシェアードサービス会社「株式会社アーレスティインクルーシブサービス」を設立しました。給与計算・従業員持株会・退職金・企業年金等の人事労務関連事務を主な業務とし、ハンディキャップのある従業員6名を含め一人ひとりが適性に応じた役割を担っています。アーレスティインクルーシブサービスは、今後も障がい者雇用・育成を促進、やり甲斐のある仕事、生きいきと働くことのできる場を提供し、「多様性を持つ人たちが働く職場」を創出することを目指します。

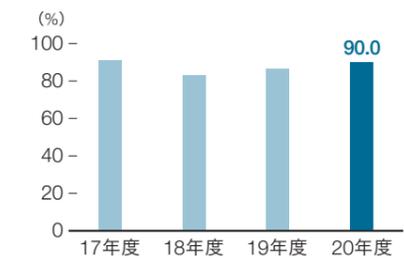


※撮影時のみマスクを外し短時間で対応しました

高齢者の積極活用

アーレスティは60歳以上の定年退職者を対象に「再雇用制度」を導入し希望者を積極的に雇用しています。経験豊富なシニア社員(熟練者)の知識・ノウハウを活かし、指導者として若手・中堅社員の育成、技術・技能伝承を行っています。

60歳時の定年再雇用比率



高い品質と生産性向上のために

～ものづくりを支えるひとづくり～

アーレスティでは、高品質で生産性の高い製品づくりを目指し、戦略的人材育成計画(人材ロードマップ)に沿った人材育成を国内外で推進しています。人材ロードマップは本部ごとに策定し人材育成を推進。ものづくり部門においては、各職種専門の力量を向上させるスペシャリスト人材の育成も行っています。20年度は、職種・勤務地を問わず同じ力量の人材育成を行うために、職種ごとに専門体系図、力量評価表の統一化を推進しました。

教育体系は、全従業員を対象とした「共通教育」と各種の専門技術を学ぶ「専門教育」に分かれ、従業員は全拠点同一水準で教育を受けることができます。アーレスティ固有の様々な技術を使用するための統計手法・管理技術を学び、訓練する場である「生産性改善報告会」、現状を分析し問題点を具体的に解決する能力、部下を指導する能力を保持できるよう現場の管理・監督者「G/Eトレーナー」の育成、グローバル全拠点の技術者による改善事例の発表やグループディスカッションを通じて技術交流・相互研鑽を図る「Global Kaizen Meeting」の開催など、様々なものづくりを支えるひとづくりをアーレスティは行っています。

会社概要

商号：株式会社アーレスティ
 資本金：69億64百万円
 創業：1938年6月22日
 設立：1943年11月2日
 従業員数：【連結】6,124名
 【単独】873名

取締役

代表取締役社長 最高執行責任者
高橋 新
 代表取締役 専務執行役員
伊藤 純二
 代表取締役 専務執行役員
高橋 新一
 取締役 専務執行役員
金田 尚之
 取締役 常務執行役員
蒲生 新市

取締役(監査等委員)
酒井 和之
 社外取締役(監査等委員)
志藤 昭彦
 社外取締役(監査等委員)
塩澤 修平
 社外取締役(監査等委員)
森 明吉
 社外取締役(監査等委員)
朝来野 修一

執行役員

常務執行役員
荒井 弘司
 執行役員
辻 鶴男
 執行役員
成家 秀樹
 執行役員
互井 聡
 執行役員
浅井 宏一
 執行役員
大島 康誉
 執行役員
峯 憲一郎

拠点情報

国内 | Japan

本社・テクニカルセンター
 製品の設計・研究開発
 ISO 14001 / ISO 9001



東京本社
 ISO 14001 / ISO 9001

東海工場
 ダイカスト製品の製造
 ISO 14001 / IATF 16949

東松山工場
 ダイカスト製品の製造、機械加工、部品組付
 ISO 14001 / IATF 16949

熊谷工場
 アルミニウム合金地金の製造
 ISO 14001 / ISO 9001

(株)アーレスティ栃木
 ダイカスト製品の製造、機械加工、部品組付
 ISO 14001 / IATF 16949

(株)アーレスティ熊本
 ダイカスト製品の製造、機械加工、部品組付
 ISO 14001 / IATF 16949

(株)アーレスティ山形
 ダイカスト製品の製造、機械加工、部品組付
 ISO 14001 / IATF 16949

(株)アーレスティダイモールド浜松
 ダイカスト製品用金型製作
 ISO 14001 / ISO 9001

(株)アーレスティダイモールド栃木
 ダイカスト製品用金型製作
 ISO 14001 / ISO 9001

(株)アーレスティダイモールド熊本
 ダイカスト製品用金型製作
 ISO 14001 / ISO 9001

(株)アーレスティプリテック
 ダイカスト製品の機械加工、部品組付
 ISO 14001 / IATF 16949

(株)アーレスティテクノサービス
 ダイカスト生産用周辺機器の製造・販売
 ISO 14001 / ISO 9001

(株)アーレスティインクルーシブサービス
 人事労務関連事務

海外

[米国 | USA]
Ahresty Wilmington Corporation
 ダイカスト製品の製造、機械加工、部品組付
 ISO 14001 / IATF 16949

[メキシコ | Mexico]
Ahresty Mexicana, S.A. de C.V.
 ダイカスト製品の製造、機械加工、部品組付、
 ダイカスト製品用金型製作
 ISO 14001 / ISO 45001 / IATF 16949

[中国 | China]
広州阿雷斯提汽车配件有限公司
 ダイカスト製品の製造、機械加工、部品組付
 ISO 14001 / ISO 45001 / IATF 16949

合肥阿雷斯提汽车配件有限公司
 ダイカスト製品の製造、機械加工、部品組付、
 フリーアクセスフロア製造
 ISO 14001 / ISO 45001 / IATF 16949

阿雷斯提精密模具(広州)有限公司
 ダイカスト製品用金型製作
 ISO 9001

[インド | India]
Ahresty India Private Limited
 ダイカスト製品の製造、機械加工、部品組付
 ISO 14001 / ISO 45001 / IATF 16949

[タイ | Thai]
Thai Ahresty Die Co., Ltd.
 ダイカスト製品用金型製作
 ISO 9001

Thai Ahresty Engineering Co., Ltd.
 ダイカスト製品設計、ダイカスト製品用金型設計、
 3Dデータのモデリング

数字で見るアーレスティ

アーレスティグループの概要を簡単にわかりやすく視覚化しました。より詳しい情報は当社Webサイトに掲示していますので、是非ご覧ください。

アーレスティ

創業

1938年6月 / 83周年

グローバルネットワーク

(国内) **14**拠点 (海外) **5**カ国 **8**拠点
 ダイカストマシン保有数 **200**台以上 国内最大級**4,000**tマシン保有

アーレスティで働く人

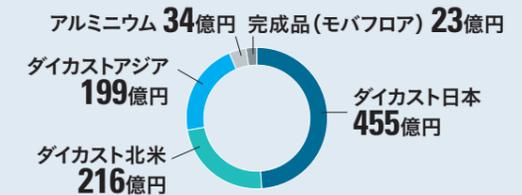
グループ従業員数 **6,124**人
 単体 **873**人
 (うち海外：3,888人 63.4%)

- 平均年齢 **43**歳
- 男女比率 **87.6%** : **12.4%**
- 女性の産前・産後休業、育児休業取得率 **100%**
- 月平均残業時間 **4**時間**40**分
- 60歳定年時再雇用率 **90.0%**

※グループ従業員数および海外従業員比率以外は単体のデータ

年間売上高

929億円
 (前年実績：1,205億円)



自動車部品年間生産個数

約**31,670,000**個
 (前年実績：40,300,000個)

モバフロア年間延床面積

66,491m²
 クリーンルーム向け国内シェア**No.1!**(50.2%)

環境 ※国内事業所データ

CO₂排出量
84,934t-CO₂
 前年比(↓20,113t-CO₂)

排出物量
1,248t
 前年比(↓237t)

水使用量
211,795m³
 前年比(↓67,124m³)

株式会社 **ア-レスティ**

本社・テクニカルセンター

〒441-3114 愛知県豊橋市三弥町中原1-2
TEL:0532-65-2170

東京本社

〒164-0012 東京都中野区本町2-46-1 中野坂上サンブライトツイン5F
TEL:03-6369-8660

<https://www.ahresty.co.jp/>

